

大河川 Q&A ウェブセミナーによる多自然川づくりの普及啓発

The popularization of nature-oriented river management with “daikasen Q&A webinar”

自然環境グループ 研究員 金子 祐
 主席研究員 中村 圭吾
 自然環境グループ 研究員 内藤 太輔

1. はじめに

近年、気候変動の影響により水災害が激甚化しており、これに対応するため大規模な河道掘削や樹木伐採を伴う河川改修事業が全国で実施されている。このような状況の中、豊かな河川環境を保全していくために、川の営みを活かして治水と環境を一体とした「多自然川づくり」の重要性がこれまで以上に高まっている。

(公財) リバーフロント研究所では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、主にオンラインによる情報発信をより効果的に実施するため、令和 3 年 6 月より連続ウェブセミナーを開催し、講演動画を当研究所ホームページにてアーカイブ配信している¹⁾。

2. 大河川 Q&A ウェブセミナーとは

本セミナーは、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課より公表されている「大河川における多自然川づくり-Q&A 形式で理解を深める-」(通称「大河川 QA」)を基に、河道掘削や樹木管理における多自然川づくりのポイントを Q&A 執筆者より解説した上で、参加者と意見交換を行うことで、大河川における多自然川づくりへの理解を深めることを目的としている。

表-1 大河川 Q&A ウェブセミナーの開催概要

開催形式	ZOOM ウェブセミナー ※会場に集まる必要が無く、手軽に参加可能であるウェブセミナー形式にて実施
開催時間	16:00~17:00 (1時間程度+αの場合あり) ※時間帯は、気軽に参加できるように一般的な企業の終業時刻程度に開催。 所要時間は、参加者が集中できるよう 1つの Q&A に対して 1時間程度 (解説 + 質疑)
開催時期	土木建設業における繁忙期 (1~3 月) を除く期間において、隔月実施。
参加者数	500 名 (上限)
CPD	土木学会継続教育 (CPD) プログラム

3. これまでの開催実績

これまで (令和 3 年度、4 年度の 2 年間) に、計 8 回にわたってセミナーを開催し (表-2)、参加申込者は、総勢 3771 人 (令和 3 年: 1835 人、令和 4 年: 1936 人)、各回 500 名程度を数えた。うち、参加者は、総勢 2483

人 (令和 3 年: 1205 人、令和 4 年: 1278 人) で、申込者の 6~7 割程度であった (図-1)。

参加申込者の内訳は、行政関係者が約 4 割、コンサルタント関係者が約 5 割、大学関係者やその他 (財団など) が約 1 割となっている (図-2)。また、行政関係者の勤務地分類で見ると、全国から視聴頂けたことが分かった (図-3)。これらより、本セミナーはコンサルタント関係者だけでなく、多くの河川管理者 (行政関係者) にも関心が高いことが伺える。

表-2 大河川 Q&A ウェブセミナーの開催実績

年度	月日	回	Q&A 番号	題目
R3	6/17	第 1 回	Q5-2	高水敷掘削後の土砂再堆積にみられる河川・流程毎の違いと対応策
	9/2	第 2 回	Q6-1	川と人・地域の関わりをもっと豊かに -大河川の自然と広い空間を活かした魅力的な水辺整備を考える-
	10/21	第 3 回	Q8-2	河道内樹木の再繁茂対策について
	11/12	第 4 回	Q4-2	河川環境管理シートのねらいについて 定量的な河川環境の捉え方 河川環境管理シートを使いこなす 4つのポイント
R4	5/26	第 5 回	全体	「令和 4 年度大河川 Q&A 集」概要と改訂のポイントについて 河川環境行政の動向
	7/26	第 6 回	Q2-1	治水で環境も良くしちゃえ! その 1 (概要・河道掘削) ①概要と基本的な考え方 ②現場での実践例の紹介
	9/29	第 7 回	Q2-1	治水で環境も良くしちゃえ! その 2 (樹木管理 等) ①樹木管理における多自然川づくりの実践例 ②多自然川づくりにおける河道の評価
	12/8	第 8 回	Q4-1	魚類に注目した河川環境の評価と環境目標の立案を目指して

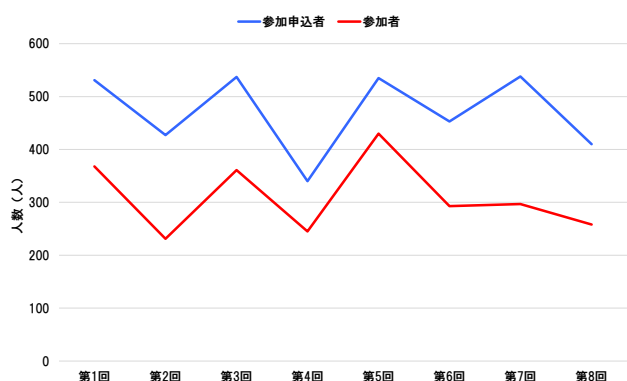


図-1 参加申込者・参加者の推移

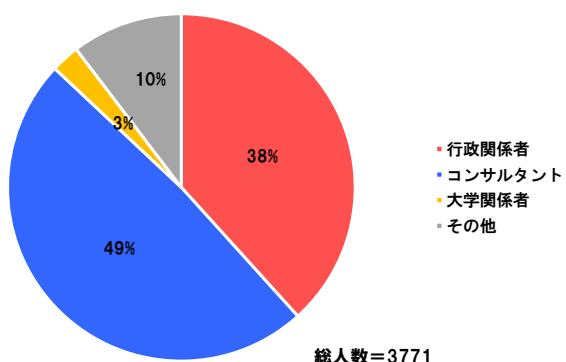


図-2 参加申込者の職種分類

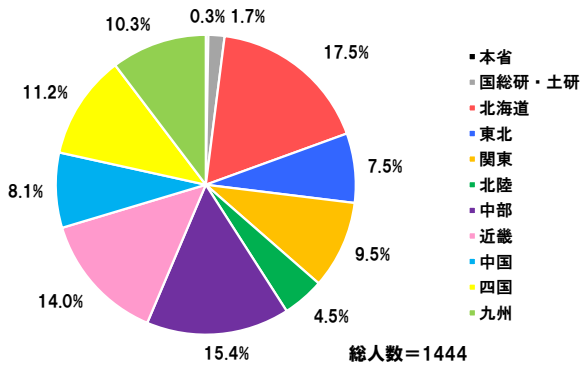


図-3 参加申込者（行政関係者）の勤務地分類

4. アンケート調査

セミナー参加者の多くは、関係者からの案内と当研究所からの案内で約7割を占めており（図-4）、図-1で示した通り、継続して多くの参加申込を頂けている。ウェブセミナーの開催にあたっては、広報用のチラシを作成し、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課から各地整への案内の他、「大河川における多自然川づくりに関する技術検討会」（通称「大河川ワーキンググループ」）メンバーから各関係者への案内や、当研究所OB・応用生態工学会等のメーリングリスト、SNS、HPを活用し、関心層に効果的に広報できるよう工夫し

た結果と考えられる。

セミナーの時間配分については、一部、開催時間が短いとの意見はあるものの、概ね満足を得られている結果が得られた（図-5）。

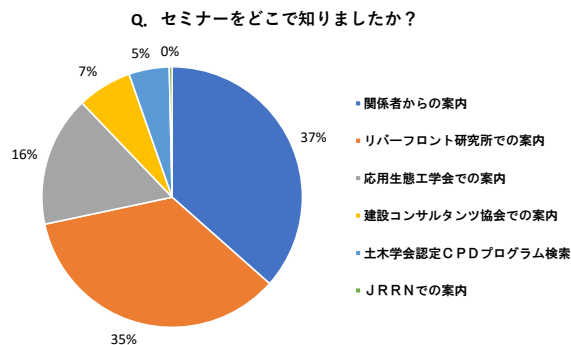


図-4 アンケート結果

(Q. セミナーをどこで知りましたか？)

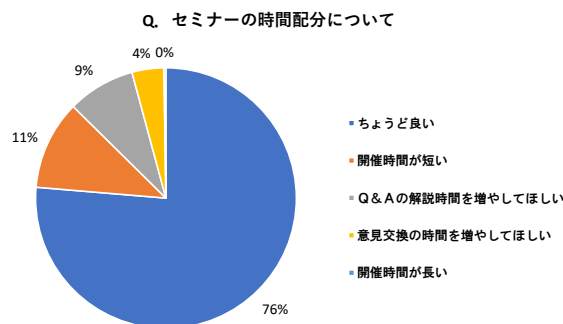


図-5 アンケート結果

(Q. セミナーの時間配分について)

5. おわりに

大規模な水災害の頻発を受けて、流域治水や緊急治水対策プロジェクト、グリーンインフラへの取組みが各地で始まっている中で、今後益々多自然川づくりに関する技術情報の重要性は高まるものと考えられる。

一方で、新型コロナウイルス感染症への対応から、新たな形態での技術情報の発信、技術指導の実施が求められている。

これらの状況を踏まえ（公財）リバーフロント研究所では、より多くの方々へ広く情報を発信できるコンテンツ・ツールを充実し、今後も最新の多自然川づくりに関する知見、優良事例の発信・普及に努めていきたい。

<参考文献>

1) （公財）リーフロント研究所:大河川 Q&A ウェブセミナー, <https://www.rfc.or.jp/daikasen.html>